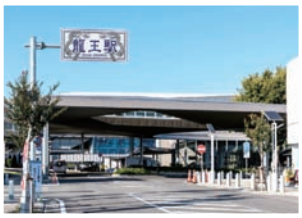
街道の駅からの小さな旅

てくてく甲斐の国

第13駅 竜王駅



竜王駅から山梨県立美術館がある芸術の森公園までは、
盆地を囲む山々を眺めながら貢川沿いの遊歩道を歩くか、
バスやタクシーを使って向かいます。
人々が暮らす住宅街や、猫も散歩するのどかな道を通り、
いろいろな風景に出合うのも楽しみ。
ミレーの絵画と山梨の自然のイメージを重ねながら、
芸術の森公園とその周辺をてくてくと…。

01 竜王駅

駅とその周辺は建築家・安藤忠雄氏の設計。駅舎内の通路はガラス張りで富士山や南アルプスなどの山々が一望できる。駅前から美術館へ向かうバスやタクシーもある。

02 イチョウ並木

芸術の森公園の入り口付近ではイチョウ並木が出迎えてくれる。春から夏は爽やかな緑色、秋が深まると黄金色に染まり、季節ごとに美しい表情を見せる。

03 バルビゾンの庭

木々に囲まれ心地よい庭。産業革命による工業化の波からバルビゾン村のフォンテーヌブローの森を守る活動をしたミレーとルソーの記念碑のレプリカがある。

04 ザ・ビッグアップル NO.45

甲府市出身の作家・佐藤正明氏の作品。穴から情報が受発信されているイメージで作られていて、日本や山梨の未来のシンボルになってほしいとの思いも込められている。

05 山梨県立文学館

樋口一葉や芥川龍之介、飯田蛇笏ら、山梨ゆかりの文豪の資料を展示している。また、広く文学に親しむイベントなども開催している。

06 ふみの池

文学館の東側に位置する日本庭園にある池。野鳥も多く飛来し、バードウオッチングが楽しめる。ハナショウブが咲き乱れる季節には風情豊かな散策に心が和む。

07 茶室 素心菴

日本庭園の奥にある。立礼席21畳、和室12畳、茶席4畳半があり有料で利用できる。また、お茶会や、落語などのイベントも開催され、憩いの場となっている。

08 芸術の小径（こみち）

美術館の近くを流れる貢川沿いの土手は、桜並木の遊歩道として整備され、彫刻作品なども展示されている。竜王駅と美術館を結ぶ散策路としても楽しめる。

てくてく 歩きの途中で…

芸術の森公園で、美術館帰りのすてきなご夫妻に会いました。芸術が好きで各地の美術館や文学館を巡るのが趣味というお二人。「東京からミレーの新収蔵作品を見に来ました。色彩がとてもきれいな絵ですね」（奥さま）「私は山梨出身ですから県立美術館はなじみ深いです」（ご主人）と穏やかな笑顔で話してくれました。

懐かしく、美しい、人の心に宿る原風景。

緩やかな起伏のある大地、広がる空。
そこには自然の恵みを享受しながら生きる人間の日々の暮らしがある。
ミレーがその温かなまなざしで見つめ、描き出したものは、
誰もが心のどこかに思いを重ねることができる原風景。
ミレーが描く風景画と、山梨の風景は、どこか似ている気がする。
自然と人が共に生きる、そんな文化が根付いているからかもしれない。

「ヴォージュ山中の牧場風景」1868年　パステル・紙／70.0×95.0cm（山梨県立美術館蔵）

ミレーが風景画を多く描き始めたのは1850年代末頃から。風景を主題として描く中で、刻一刻と変化していく自然の表情を表現する色調に重きが置かれるようになった。《ヴォージュ山中の牧場風景》は旅行先でのスケッチをもとにバルビゾン村のアトリエで制作されたものである。ミレーの晩年のパステル画を特徴づける豊かな色彩がここにも認められる。